

会員報告

自立生活はじめました

～住宅改修～

山本 智章

もうすぐ自立生活が始まると縦横夢人 12 号に書いてから約 5 ヶ月が経ちました。

前回に書いていませんでしたが、入居の時期が遅くなった理由は住宅改修を行う為に管理会社や役所の許可を得る必要があったからです。住む家が車椅子対応の市住だったことから入居前に家の中を見学させてもらいました。そこで、数名の方に部屋を案内してもらったり、説明を聞いたりと相談する機会がありました。

最初に聞かれたのは、約 40 センチの段差がある畳の部屋をフラットの洋室にするかどうかでした。もちろん、フラットの洋室にしてもらうように伝えました。その改修は市が入居前に行ってくれるとのことで、私への負担額はありませんでした。そんな嬉しい話があるのかとびっくりしたことを覚えています。部屋の段差を改修するだけなら 3 月に入居できる予定でした。

これからが浴室の改修の話です。私の従来の生活スタイルにあった改修の話は、施工業者と済んでいたのですが、役所の許可が出ないことには工事が行えません。そもそも、なぜ許可が必要だったのか。それは、住宅改修助成の制度を利用するにあたって、理学療法士や 1 級建築士やコーディネータの各分野の専門の方々とも話し合う必要があったからです。他にも理学療法士からは私の体の可動域を確認されたり、1 級建築士には間取りの設計図を作成されたり、様々なところで少し時間を取られたりすることもありました。

こういった審査を経て、必要な書類等を提出し許可が出るのを待っていました。役所の手続きというものは時間がかかるもので“イライラ”することがありましたが、そのお陰で 1 日のスケジュールやヘルパーさんの確保などの準備も同時に進めることができました。それでも、準備不足の状態でした。ようやく 4 月末に許可が降りて改修工事がゴールデンウィーク明けに始まりました。

約 10 日間で改修工事が終わり、5 月末から“自立生活”が始まりました。その間も何度か家を見に行き“どんな生活”になるだろうとワクワクしていました。市との約束では、この家を出る時には改修した全ての箇所を現状復帰することになっています。まだまだこの家での生活を楽しんでいこうと思います。今回のような住宅改修の件でいろんな専門の方々との意見交換ができ、とても良い経験になりました。これから始まる生活の様子を次号に書きたいと考えています。



改修前の浴室



改修後の浴室